

## 「 白いコブシと赤紫のモクレン 」

校長 益満 等之

冷たい雪の下で眠っていた草木が一斉に芽吹くのと時を同じくして、1年生から3年生まで127名の生徒が一斉に活動を始めました。令和8年度の豊明高等支援学校の学校生活が始まりました。スタートしたことを改めて感じているところです。

ところで、豊明高等支援学校の校門近くには、「コブシ」と「モクレン」の木があることをご存じでしょうか。しかもよく見ると、接ぎ木がされていて、幹の下のほうから「コブシ」と「モクレン」が二股に分かれて二種類の木が一本の木となっているのです。4月下旬から5月上旬にかけてコブシとモクレンの花が最盛期を迎えます。真っ白いコブシの花と、赤紫のモクレンの花が、枝を絡ませながら一斉に咲き誇り、青空に揺れるその様子は本当に美しいものです。本校の過去を知る職員に、二つの花が咲く木が、なぜ豊明の玄関前にあるのかを詳しく聞くことができました。

豊明高等支援学校は今年で開校50年目を迎えます。開校したのは昭和51年（1976年）で、当時は豊平小学校の教室を間借りしていました。校歌の最初の歌詞は「藻岩の山」であることや、校章の縁取りのギザギザは豊平川の流れを表していることが、その名残を伝えています。今から34年前の平成4年（1992年）に、現在の西茨戸の地に豊明高等支援学校の新校舎が建てられました。独立した学校となり、生徒数も大きく増加したのもこの年です。

豊平から西茨戸への引っ越しの際、豊平校舎の庭にあった、まだ小さかった「白いコブシと赤紫のモクレンの木」を、根こそぎ持ってきて、当時の教職員の手で豊明の玄関前に植えたとのことでした。その時にはすでにどなたかが接ぎ木をしており、二つの花が咲く木となっていました。

調べてみると、コブシとモクレンは、どちらもモクレン科の落葉広葉樹であり、似た種ではあるものの、花の形や花びらの枚数など違う点も多く、異なる植物同士が同じ幹で繋がりと、すくすくと成長していることは大変珍しいことです。豊明高等支援学校の玄関に向かって右側にあるこの木を、機会があるごとにぜひ見上げてみてください。

さて、今年も春が来たことを告げるように、この木の枝に蕾が膨らみ始めました。校長室の窓から見えるその蕾の先は、白と赤紫に色づいています。

豊平校舎の頃から豊明の歴史を見続けてきたこの「白いコブシと赤紫のモクレン」の木は、冬の寒さにも大雪にも、夏の日照りや嵐にも耐え、力強くしなやかに生命のエネルギーを放っています。そして、じっと立つこの木は、春を迎えるたびに白と赤紫の美しい花を咲かせ、きっとこれから先の未来も豊明の生徒たちを温かく見守っていくことでしょう。